

【社会派絵画の制作】

新聞名	産経新聞
年月日・曜日	令和3年(2021) 5月25日(火)
掲載面	第1面 4版
この記事から考えたこと・作品を通して伝えたいこと	この記事のどの写真も美しいし、解説も分かりやすく、天文に興味のある人はもちろん、そうでない人もワクワク感が高まると思う。また、ライブ中継やオンライン解説など、離れていても皆で楽しめるイベントも沢山紹介されていて、コロナ禍で沈みかかっている時代に必要なのは、人とのつながりを感じさせるような、希望に満ちた記事だと思う。美しい、ワクワク感、気持ちを高める思いを伝えたい。
記事の中のキーワード	連想されるもの・こと・イメージ
皆既月食	ロマンチック、美しい
天体ショー	どこからでも、誰もが楽しめるイベント
スーパームーン	「超月」、すごい名前
ライブ中継	全国のたくさんの人とつながって共有できる、楽しめる
赤銅色	影が加わるとそんな色になるのか!!

# 皆既月食 美しさスーパー級

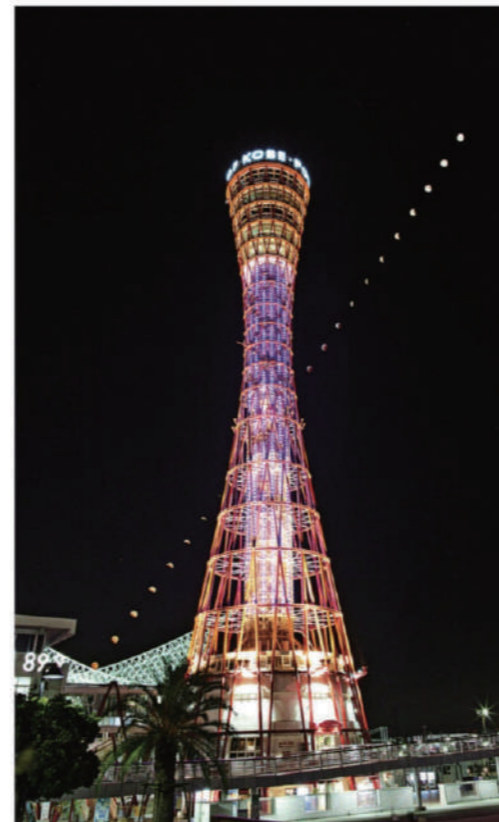


平成30年1月の皆既月食。写真左から午後8時52分、9時2分、9時30分、10時27分に撮影した＝東京都墨田区(古厩正樹撮影)

あす夜 3年ぶり

## 肉眼でも観察可能 ライブ中継も

太陽と地球、月が一直線に並び、地球の影に月が隠される現象「皆既月食」が26日、約3年ぶりに全国各地で見られる。この日の夜の満月は今年一番地球に接近する、いわゆる「スーパームーン」。天候が良ければ、普段よりやや大きめの月による天体ショーが楽しめる。国立天文台によると、月食が始まるのは26日午後6時44分。約3年ぶりに全国各地で見られる。月が特に大きく美しく見える「スーパームーン」と重なった。早めの時間に始まることもあり、子供や高齢者も楽しみやすい条件がそろっている。どんな観察方法があるのか。国立天文台によると、月食は午後6時44分に欠け始めるが、東京など一部を除く多くの地域では、このとき月はまだ地平線の下。月の上辺が地平線と一致する「月の出」を迎えたときには、すでに月が欠け始めた状態だという。近畿2府4県の月の出は午後6時51分54分。建物や山などに隠れることもあり、場所によっては月が視界に入るまでにはさらに時間がかかりそうだ。京都産業大の中道晶香教授(宇宙論)によると、皆既月食の舞台となる南東方の市街地からでも見られる。「望遠鏡がなくても月の満ち欠けや皆既食の様子は、肉眼で十分楽しめる」(中道教授)といい、スポーツ観戦などに使う一般的な双眼鏡を使えば、月の模様まで観察できるという。大阪管区気象台によると、近畿地方では、皆既月食が起きる時間帯に一部で雲がかかる可能性がある。万が一曇ってしまった場合は、各地の天文台などがインターネット中継する映像をリアルタイムで楽しむという方法がある。これまでの皆既月食では各地で観覧会が開かれていたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、各天文台や科学館がライブ中継に切り替えた。リアルタイムの映像とともに専門家の解説が聞けるのも魅力で、中道教授も京都産業大神山天文台からの中継で解説を行う。「オンラインの説明を聞きながら、実際に空を見て観察してもらおうのも楽しいのでは」と中道教授は話す。このほか、ライブ中継で各地の空をつなぐイベントも予定されている。天体望遠鏡などを取り扱う「サイトロンジャパン」(東京)と、天文ファン向けのウェブメディアを運営する「リフレクションズ・メディア」(福岡)は26日午後6時20分から、全国の天文愛好家らをつなぎ、各地から月食の様子を中継するイベント「皆既月食ライブリレー」を実施する。東京、京都、高知、福岡など10カ所程度からの中継を予定しており、サイトロン社の公式YouTubeチャンネルで配信。担当者は「なかなか外出ができない時期だが、自宅で各地の皆既月食の様子を楽しんでほしい」と話している。(鈴木俊輔)



平成26年10月の皆既月食。神戸ポートタワーと共演した＝神戸市中央区(10分おきに撮影した写真を合成、山田哲司撮影)

約3年ぶりに全国各地で見られる26日の皆既月食は、月が特に大きく美しく見える「スーパームーン」と重なった。早めの時間に始まることもあり、子供や高齢者も楽しみやすい条件がそろっている。どんな観察方法があるのか。国立天文台によると、月食は午後6時44分に欠け始めるが、東京など一部を除く多くの地域では、このとき月はまだ地平線の下。月の上辺が地平線と一致する「月の出」を迎えたときには、すでに月が欠け始めた状態だという。近畿2府4県の月の出は午後6時51分54分。建物や山などに隠れることもあり、場所によっては月が視界に入るまでにはさらに時間がかかりそうだ。京都産業大の中道晶香教授(宇宙論)によると、皆既月食の舞台となる南東方の市街地からでも見られる。「望遠鏡がなくても月の満ち欠けや皆既食の様子は、肉眼で十分楽しめる」(中道教授)といい、スポーツ観戦などに使う一般的な双眼鏡を使えば、月の模様まで観察できるという。大阪管区気象台によると、近畿地方では、皆既月食が起きる時間帯に一部で雲がかかる可能性がある。万が一曇ってしまった場合は、各地の天文台などがインターネット中継する映像をリアルタイムで楽しむという方法がある。これまでの皆既月食では各地で観覧会が開かれていたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、各天文台や科学館がライブ中継に切り替えた。リアルタイムの映像とともに専門家の解説が聞けるのも魅力で、中道教授も京都産業大神山天文台からの中継で解説を行う。「オンラインの説明を聞きながら、実際に空を見て観察してもらおうのも楽しいのでは」と中道教授は話す。このほか、ライブ中継で各地の空をつなぐイベントも予定されている。天体望遠鏡などを取り扱う「サイトロンジャパン」(東京)と、天文ファン向けのウェブメディアを運営する「リフレクションズ・メディア」(福岡)は26日午後6時20分から、全国の天文愛好家らをつなぎ、各地から月食の様子を中継するイベント「皆既月食ライブリレー」を実施する。東京、京都、高知、福岡など10カ所程度からの中継を予定しており、サイトロン社の公式YouTubeチャンネルで配信。担当者は「なかなか外出ができない時期だが、自宅で各地の皆既月食の様子を楽しんでほしい」と話している。(鈴木俊輔)

### 皆既月食中の月の位置(26日)





新聞名・発行年月日・面	作品の内容について
<p>産経新聞 令和3年(2021)5月25日(火) 1面 4版</p>	<p>記事の解説にあたり、月の見え方の変化と、全国各地から観測して共有し合うワクワク感が伝わるように、ファンタジ的に描いた。</p>

# 【社会派絵画の制作】

新聞名	朝日新聞
年月日・曜日	2021年(令和3年)5月4日(火)
掲載面	第1(14版)面, 第25(13版)面
この記事から考えたこと・作品を通して伝えたいこと	SNSで拡散されてしまうと、あることないこと何でも一気にたまってしまい、更には尾ひれまで付いてそれがあたかも全て真実であるかのように認識されることがとても多く、もっと悪いことには信じてしまった人が極めて主観的・一方的な正義を振りかざし、独りよがりの信念を持った上で攻撃に至るという恐れ。そのことが、1923年の関東大震災の頃から時代も進んで人々が色々な知識を得た現代になってもなお同じことが繰り返されている。更に読んでいて憤ったのは、「情報の真偽を判断する責任は受け手にある」だから「改めるつもりもない」という所だ。確かに、受け手による情報の取捨選択の素養は必要だ。しかし、それでは発信者は投げ放しで良いということなのか。自分のアカウントだから、言論の自由があるから、判断は受け手の自己責任だから... だから何を言っても良いのか。専門家ではないことを真実であるかのように発信することが認められてしまう社会は危険だ。
記事の中のキーワード	連想されるもの・こと・イメージ
テーマ	根拠もないこと、意図的に(特にマイクイメージで)作られたこと。
情報の真偽	特にネット上のものすべて。
判断する責任	それでは、発信者の責任は?
差別や憎悪表現	根深いもの。持っている人からはそう簡単にはなくならないもの。
からかい	ネタやからかいなどの軽い言葉だが、やっていることも果たしてそうなのかな?
事実上野放し	抑止力がかかれば、一人歩かざる。

# 毒のデマ 100年経てよみがえる

「リアル」  
「がすわり」

目目の電線が、左右に大きく揺れていた。2月13日午後11時すぎ、東京都内の住宅街。下水道工事の現場で作業していた男性(34)は休憩中、福島県沖を震源とする最大震度6強の地震に気付いた。缶コ

ーヒーを片手に、右手のスマホでツイッターを開き、打ち込んだ。

「BLMが井戸に毒を投げ込んでる……!」

システムエンジニアの20代男性は、横浜市の友人宅でゲーム中に揺れを感じた。スマホを見るとこのツイートがあった。黒人差別反対を示すBLM(ブラック・ライブズ・マター)から変え、自分も投稿した。

「友達が見ました!」

最初のツイートから2分後だった。

大阪府の在日コリアン3世、文公輝さん(52)は「井戸に毒」のツイートを見て「心臓に突き刺さるような恐ろしさ」を感じた。国の中央防災会議によると、1923年の関東大震災では「朝鮮人が井戸に毒

を入れた」とのデマが流れた。関東で自警団や軍隊などが暴走し、多くの朝鮮人が虐殺された。「私たちは常に、社会が混乱すれば殺されるかもしれないという恐怖を抱えている。『井戸に毒』はトラウマだ」

さいたま市に住む在日コリアン3世の金村詩恩さん(29)も、地震発生直後に投稿を見た。デマは東日本大震災をはじめ、災害のたびに繰り返される。シヨックを受け、ツイッター社に通

報した。

記者は3月下旬、さいたま市の郊外を訪れた。旧片柳村の染谷地区(現・さいたま市見沼区染谷)。金村さんは、祖母の家がある染谷に地震翌日に来てい



「友達が見ました!」  
「バイデンが福島井戸に毒を投げ込んでるの」を友達が見ました!  
23:20 · 2021/02/13 · Twitter for iPhone  
ツイートアクティビティを表示  
485件のリツイート 126件の引用ツイート 1202件のいいね

た。田畑が広がる中に、一人の朝鮮人の墓がある。墓の近くに井戸はあった。地区では今も井戸水が生活に使われている。口に含むと柔らかい味がした。近くに住む高橋隆亮さん(77)に会った。えんじ色の古びた手帳を見せてくれた。

「各人棍棒、日本刀、槍、短銃、鳥打銃等ヲ持参シ集マル……」

祖父で、関東大震災当時染谷区長だった吉三郎さんの字だ。デマが流れ、指示がなくても自警団が武装

する様子が記されていた。隆亮さんは言った。「祖父が結成した自警団は夜警に出て、朝鮮人の男性を日本刀と槍で襲った。父は、自分の家の畑で男性が切りつけられるのを見ていた」

旧大宮市史によると、事件で命を落としたのは姜大興さん。24歳だったという。手帳には、傷は20力所以上に及んだとあった。百年の時を超えて再び氾濫する「井戸に毒」の言葉。投稿者たちに会った。

23面に続く

「みる・きく・はなす」はいま

# 軽い発信 軽んじられる歴史

「リアル」  
「かすむリアル」  
5

1面から続く

東京23区内のファミレスに現れたのは、パーカにジーンズ姿の男性だった。34歳。下水道工事の仕事終わりだという。ウーロン茶を飲みながら話し始めた。

「『井戸に毒』のパロディで、何かネタにしてやろうと思ったんです」

記者は「BLMが井戸に毒」のツイートを見て、直接メッセージを送り、面会を依頼していた。

男性は、東日本大震災後にも「井戸に毒」というツイートを拡散したことを知っていた。「BLMは反トランプ。トランプ元米大統領支持者はこんなデタラメ

## 「話の別」虐殺男性「ツイート」

でも信じるのか、というからかいだった」と言った。

小学4年のときテレビゲームにはまって不登校になった。歴史や戦争など興味がある分野を、ネットや本で調べた。関東大震災と朝鮮人虐殺のことも知ったという。

工事現場の作業で生計を立てる。6畳2間の築38年のマンションで、妻と猫と暮らす。ゲームをしながらツイートする。投稿が100件近くになる日も。何か起きた時は、深く考えずに素早く投稿する。「反応があるとうれしい」と言う。

「井戸に毒」の投稿には普段とは桁違いの50件近い返信があった。差別だと指摘する批判的な内容がほとんどだった。

34歳の男性に続き「バイデンが福島に井戸に毒」と投稿したのは、京都大学出身のシステムエンジニアの20代男性だった。ポタンタ



庭の井戸(後方)を生活に使っている高橋隆亮さん。自警団は「夜警」に出かける前、井戸の前で日本刀を研いだという＝4月23日、さいたま市、相場郁朗撮影

ウンシヤツ姿の男性と、京都市内の喫茶店で会った。中学生の時にツイッターを始めた。今は自宅でゲームや映画の合間に投稿する。1日で10時間続くこともあった。ツイッターを「体の一部」と言う。

さいたま市染谷地区の常泉寺。片隅に百年近く前に殺を知っていますか。そう聞くと、男性は「当時の日

## 危険性 野放し 続けるデマ

大興さんは1923年9月4日午前2〜3時ごろ、自警団に日本刀や槍で襲われ、その後死亡した。

「村人が総出で殺してしまった」。住民の高橋隆亮さん(77)は父の武勇さんから事件のことを聞いた。

関東大震災の翌日、埼玉県は「朝鮮人が暴動を起こしている」という趣旨の通知を各役所に出した。「朝鮮人が井戸に毒を入れた」というデマが流れた。

武勇さんの父、吉三郎さんは当時、染谷区長で、村の若い男性らを集めて自警団を作った。「朝鮮人の襲撃」への備えだった。

震災2日後、自警団は初の「夜警」に出た。鉢合わせしたのが姜さんだった。

武勇さんは当時、旧制中学の4年生だった。家のサツマイモ畑に逃げ込んだ姜さんが、つるに足を取られて転ぶのを見た。そこに、若者たちは襲いかかった。村でその後、事件は語られなかった。

武勇さんは、姜さんの墓に線香をあげるよう隆亮さんに語りかけた。その墓は高橋家の墓の近くにある。姜さんの墓は当時の村人が建てた。今は少し欠け、コケが生えている。

隆亮さんは毎年、追悼行事をしている。災害のたびにデマが飛び交う現代。「根も葉もないことを言っ

てそのかす行為は、大きな間違いにつながる」

福島県沖地震直後の「井戸に毒」などの投稿約20件を、元東京都庁職員の女性(46)はツイッター社に通報した。「デマはだめだと主張しなければ、それらにのみしていることになる」

ジャーナリストの津田大介さん(47)も同じ頃、約30件のデマを取り上げてネット上で通報を呼びかけた。「デマや差別は事実上野放しになっている。放置し続けると現実の犯罪につながる恐れがある」

朝日新聞の分析では、4月下旬までの「井戸に毒」を含む投稿は、批判する趣旨でリツイートされたものも含め6万6千件にのぼった。それ以外に投稿後に削

「みる・きく・はなす」はいま

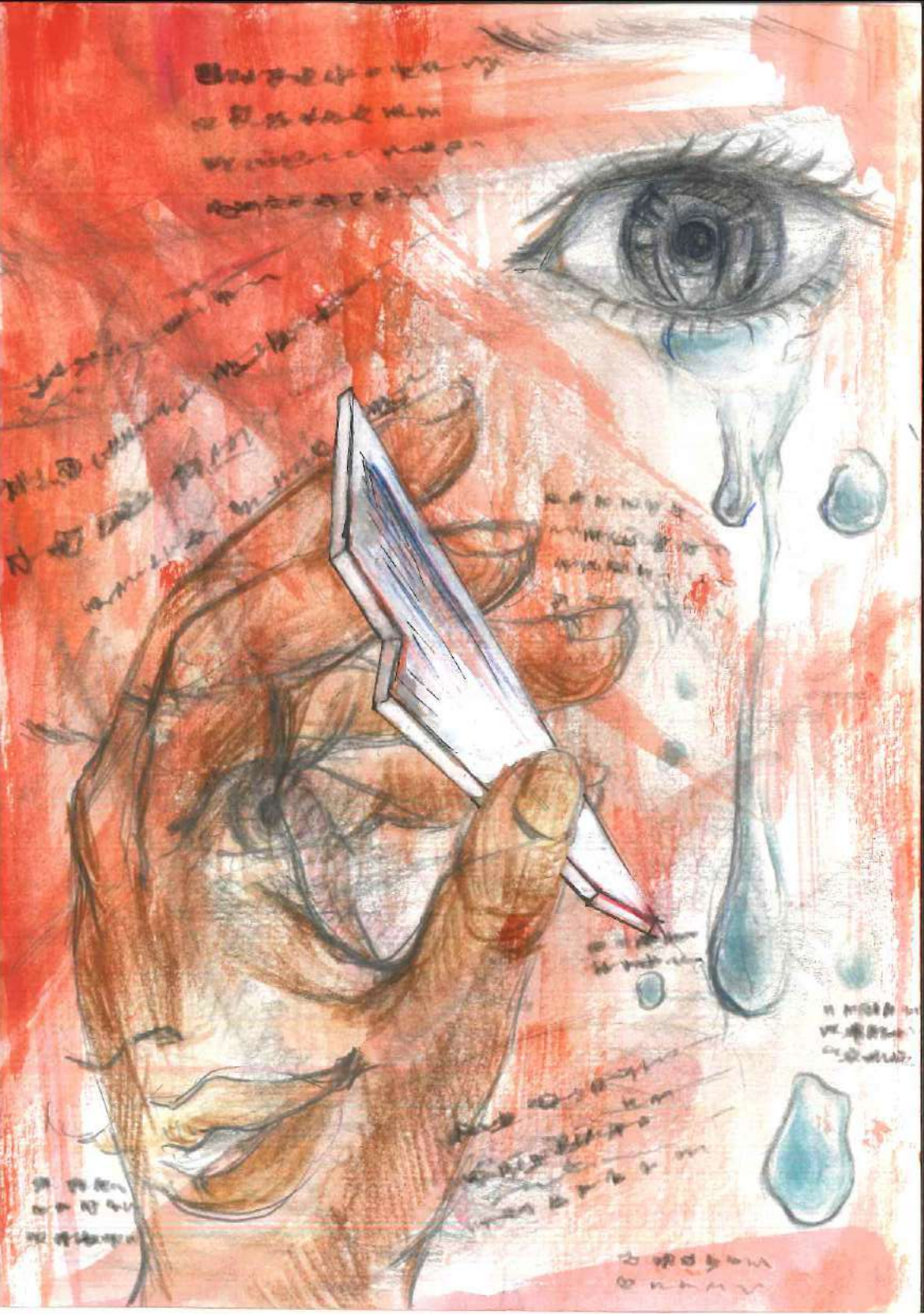
除されたものがある。ツイッター社には差別や憎悪表現を禁ずる規約がある。担当者は「井戸に毒」の投稿は規約に反しているとし、「把握分は何らかの対処をしたが、こうした表現は次から次へと出てくるのが実情だ」と明かした。

記者は3月下旬、「BLMが井戸に毒」と投稿した東京の男性に再び会った。姜さんの墓を訪れたと伝えた。1時間ほど話し、尋ねた。「いま『井戸に毒』をどう思っていますか」

こちらを見た。拳を握りしめた。「その表現も、朝鮮人差別も、今や深刻じゃない。ツイッター社からの指摘もない。自分の表現が間違っているとは思わないし、改めるつもりもない」

男性が発した「井戸に毒」の言葉は、その後もツイッター上に残っている。

この連載は安井健悟、矢島大輔、宮野拓也、土井良典、寺尾佳恵、杉浦幹治が担当しました。



新聞名・発行年月日・面	作品の内容について
<p>朝日新聞</p> <p>2021年(令和3年)5月4日(X)</p> <p>1面14版</p> <p>25面13版</p>	<p>発信者側の書き込みや発言は鋭い凶器にもなり得るものであり、それによって深く傷つく人がいるということを表現した。発信者側はほんのからがいの軽い気持ちであってもそれが拡散され増大していく恐ろしさを伝えた。</p>



# 紅いもタルト自立の色

復帰50年へ

沖縄名産物語



⑤次々と製造されていく紅いもタルト。沖縄県豊後村、喜本美奈子撮影。④沖縄の土産菓子として広く知られる「元祖紅いもタルト」を生み出した瀨崎カズ子さん（4月30日、沖縄県豊後村）

背丈ほどに伸びたサトウキビ畑が続いている。しばらく進むと、赤い瓦屋根の建物が目に飛び込む。

那覇空港から北に車で約1時間。沖縄本島中部、豊後村の残波岬近くに、その会社はある。沖縄を代表するお菓

子、紅いもタルトを育んできた「御菓子御殿」だ。沖縄が日本に復帰して50年、目、だれも知る食べ物や工芸品から、その素顔に迫る「沖縄名産物語」を、ここから始めたい。

## 大量解雇に直面

## 基地に頼らぬ経済へ 地元結束

### 基地依存と脱基地経済

第2次世界大戦後に米軍統治下にあった沖縄は、同時期の本土の高度経済成長から取り残され、基地依存型の経済構造がつくられていった。だが本土に復帰後は国の沖縄振興計画もあり、観光や情報通信産業が成長。県経済全体に占める基地関連収入は減少した。県によると、県民総所得に占める基地関連収入の割合は1965年度に30.4%、復帰した72年度に15.5%だったが、76年度に10.0%となって以降は1桁で推移し、17年度は6.0%だった。米軍基地の跡地利用も、那覇・新都心地区では返還前と比べて経済効果が約32倍、雇用者数が約93倍となるなど県経済に好影響を与えている。



山内徳信さん

山内さんも戦争で自宅を基地に奪われた一人。「米軍の都合に村の生活が振り回されてきた」。

### 生産農家14倍に

村の商工会も一丸となって宣伝に乗り出し、県内での反響は上々。しかし、県外の物産展に出店すると、「食べ物色じゃない」「わざと色をつけているのか」と酷評された。メディアも珍しがって取り上げたが、すぐに忘れられた。転機は95年。羽田なつみ那

ベトナム戦争の泥沼化で、米軍は予算抑制に躍起になっていった。復帰を前に米軍人向けの御業をたたんだ20代の瀨崎さんは、解雇された料理人らを誘い、地域の人を相手にレストランを開業した。

まもなく人気を集めたのは、洋菓子だった。揚げたてのドーナツなど、基地内で料理人が覚えたアメリカの味。甘い甘い「品が安価で手に入る」と、1日1千個が飛ぶように売れた。

1979年、瀨崎さんは生まれ育った豊後村で、本格的な菓子会社を立ち上げた。そのころ、村役場では連日、職員たちが熱い議論を戦わせていた。「地方の時代」「一村一品」を合言葉に全国の過疎地域が村おこしを競い合っていた。

「紅いもで村おこしを」――。そう提案したのは当時の村長、山内徳信さん（86）。沖縄でのイモの起源は琉球王朝時代にさかのぼり、飢饉を救った言い伝えがある。村はかつて、その一大産地だった。しかし、沖縄戦で占領され、基地の村へと変貌。イモの生産量は激減し、住民は軍用地料や、米軍相手の商売で生活する人が少なくなくなった。

「紅いもで村おこしを」――。そう提案したのは当時の村長、山内徳信さん（86）。沖縄でのイモの起源は琉球王朝時代にさかのぼり、飢饉を救った言い伝えがある。村はかつて、その一大産地だった。しかし、沖縄戦で占領され、基地の村へと変貌。イモの生産量は激減し、住民は軍用地料や、米軍相手の商売で生活する人が少なくなくなった。

「紅いもで村おこしを」――。そう提案したのは当時の村長、山内徳信さん（86）。沖縄でのイモの起源は琉球王朝時代にさかのぼり、飢饉を救った言い伝えがある。村はかつて、その一大産地だった。しかし、沖縄戦で占領され、基地の村へと変貌。イモの生産量は激減し、住民は軍用地料や、米軍相手の商売で生活する人が少なくなくなった。

「紅いもで村おこしを」――。そう提案したのは当時の村長、山内徳信さん（86）。沖縄でのイモの起源は琉球王朝時代にさかのぼり、飢饉を救った言い伝えがある。村はかつて、その一大産地だった。しかし、沖縄戦で占領され、基地の村へと変貌。イモの生産量は激減し、住民は軍用地料や、米軍相手の商売で生活する人が少なくなくなった。

## 【社会派絵画の制作】

新聞名	朝日新聞
年月日・曜日	2021年(令和3年)5月23日(日)
掲載面	第27面(3版)
この記事から考えたこと・作品を通して伝えたいこと	第二次世界大戦終盤頃にあった沖縄戦のことは昔本で読んで知っていたが、今現在私には観光地として沖縄を認識していて、それに至るまでには地元の人たちの熱い議論や努力があってこそのものであるというところが分かった。土地を奪われたり基地への依存ありきの生活など様々な逆境にあっても、沖縄の土地を愛し、その特色を生かすべく試行錯誤を続けたというこの記事に感銘を受けた。「今回もまた乗り越えたね、って言える日がくるはずよ」という言葉がとても心に残った。今の私たちにも必要な言葉だと思ふ。

記事の中のキーワード	連想されるもの・こと・イメージ
日本に復帰して50年	戦後20年以上も日本ではなかったという歴史
沖縄戦	住民を巻き込んだ地上戦
基地経済からの自立	土地条件や地域資源を生かすこと
紅いも	きれいな色、おいしそうと思いが当時、「食べ物色じゃない」と言われたのに驚いた
村おこし	妥協せずに追求していく
乗り越えた	今の私たちにも必要な言葉
地方の時代	その土地らしさを生かして伝えていく



新聞名・発行年月日・面	作品の内容について
<p>朝日新聞 2021年(令和3年)5月23日 27面 13版 (日)</p>	<p>沖縄の音楽を聴きながら、ゆったりとした気持ちで撮りました。紅いそのきれいな色と、海と太陽と人々の温かい心表現しました。</p>

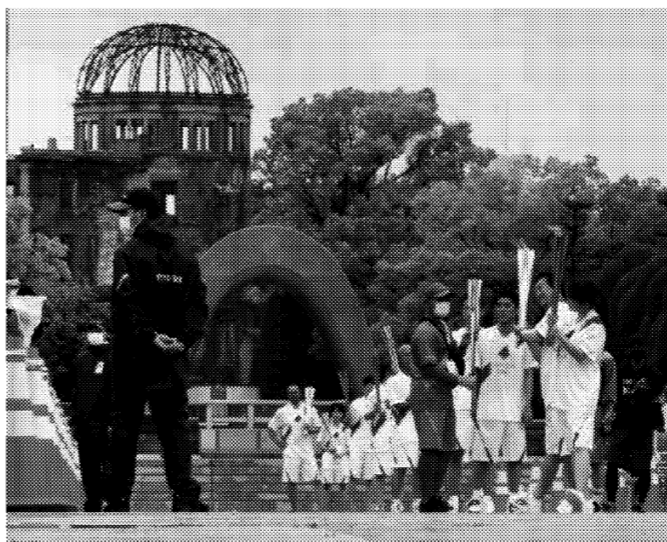
# 【社会派絵画の制作】

新聞名	日本経済新聞
年月日・曜日	2021年(令和3年)5月18日(火曜日)
掲載面	第 33 面 12 片反
この記事から考えたこと・作品を通して伝えたいこと	戦争や原爆のことは授業で学んだので"知ってはいるが"この記事にあるように、様々なセレモニーで機会あるごとに伝えていくことはとても重要なことだ。語り継いでいける人も高齢化しているので、若い人たちに一般に知らってもらうためにも、オリンピックの聖火リレーに平和の思いを重ねるといいのだからよく伝わってくる記事だ"と思う。しかし、コロナ禍で一般の人が参加できない、見ることもできないというのはとても複雑な思いだろう。それでも、やるということに意味があるのではと思った。

記事の中のキーワード	連想されるもの・こと・イメージ
平和の思い重ね	祈りと願い、皆が繋がっていくもの
原爆の犠牲	忘れてはならない。
死にたくない一心	想像を絶する。死にたくない、死なせたくない。
新たな人生の始まり	いくつになっても思いがある、踏み出せる、勇気。
一日一日を大切に	重い言葉、一時一時を大切に。
複雑な心境	コロナ禍で状況が変わってしまった。一般の人、伝えていくべき大多数の相手がか参加できないもどかしさ。
	→

年 組 番 名 前

貼付欄



広島県で始まった東京五輪の聖火リレーは17日、広島市の平和記念公園「ピースキス」や点火セレモニーで大勢の人たちへの思いを胸に臨んだ。

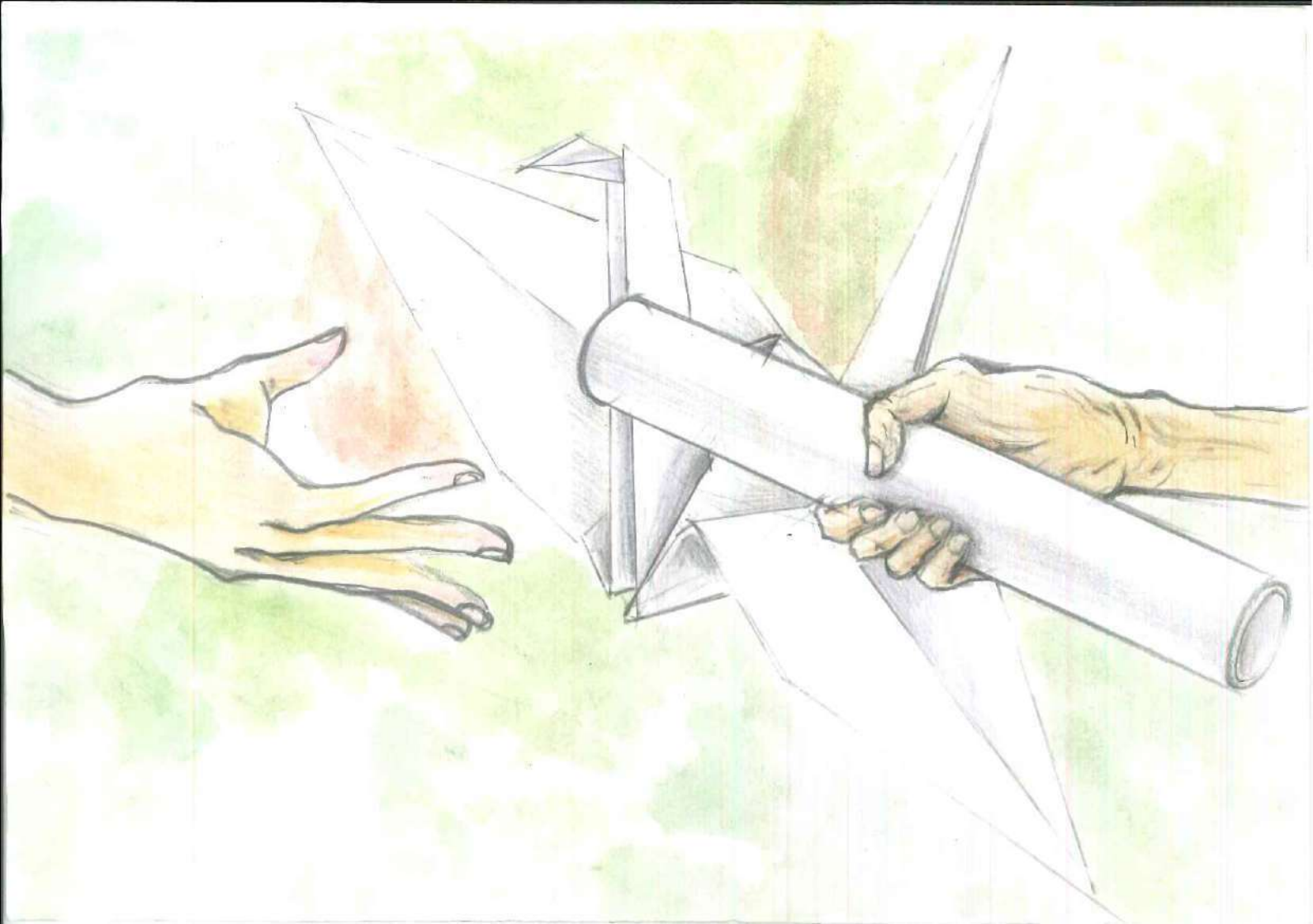
棍矢文昭さん(82)は原爆投下で2歳上の姉の命を奪われ、自身も被爆した。76年前、死にたくない一心で広島を走ったという。新型コロナウイルスの感染拡大で市内を駆け回ることが出来なかつたが、「平和の火を掲げることができて満足だ」と語った。

広島県三次市で走る予定だった被爆者の富久正二さん(104)は、感染リスクを考慮してセレモニーの参加を諦めた。97歳で陸上を始め、リレーを「新たな人生の始まり」とするつもりだった。残念だが、今後とも一日一日を大切に生きていきたい」とコメントした。

一方、複雑な心境で見つめる被爆者もいた。広島県原爆被害者団体協議会(県被団協)の佐久間邦彦理事長(76)は「コロナ禍でのリレー実施を」と疑問を口にした。

広島県でのリレーは2日間の日程。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、県全域で公道での走行は中止となった。

## 聖火リレー、被爆者ら見守る 広島、平和の思い重ね



新聞名・発行年月日・面	作品の内容について
日本経済新聞 2021年(令和3年)5月18日(火) 33面 12版	聖火リレーと、平和への思いをつなぐリレーとの両方の意味を含めて描きました。